Super Taikyu
JapaneseEnduranceRace

BRIDGESTONE ENEOS

MEDIA RELEASE

2026 年 11 月 1 日

Team Noah

マッハ車検 PMU RACING PADS PETRONAS Syntium GR Garage 熊本中央 C72 SUPER COOLING SYSTEM HOTEL AZ FŪGA AUTO STAFF Racing Parts Development SWC Freedom Engineering Innovation

淡々と進む 3 時間レースを 7 位で完走しポイントを加算





Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、10 月 24～25 日に岡山国際サーキット(岡山県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 第 6 戦「スーパー耐久レース in 岡山」に 4 名のドライバーで参戦。曇天で行われた 3 時間耐久レースで、大きなトラブルなく 7 位で完走を果たし 4 ポイントを加算した。

今回は A ドライバーに下垣和也、エースの冨田自然(あるが)、大分県出身の森田真心(こころ)、福岡県在住の永原蒼翔(あおと)というレギュラーの 4 名で 3 時間レースに臨んだ。このレースには全 10 クラス計 55 台の車両がエントリー。全体を 2 つのグループに分け、それぞれのグループで 3 時間レースを実施する。「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は ST-X、Z、TCR、USA クラスからなる Gr.1(全 22 台)に振り分けられた。ST-Z クラスには、国内外の GT4 マシン 4 車種計 11 台がエントリーした。公式予選は 24 日の午後に行われ、A ドライバー下垣と B ドライバー冨田の合算タイムでクラス 7 位総合 12 位となった。

決勝レースは 25 日に行われた。午前中に行われた Gr.2 のレースは雨～曇りという難しいコンディションだったが、ピットウォーク時には雨もほぼ上がった。ドライバーは 4 名登録しているが、3 時間レースでは 3 人で完了できるため、今回は下垣、冨田、森田の 3 名で臨むこととした。今回スタートを担当するのは下垣で、A ドライバーの義務周回時間 60 分を最初に消化し、中盤から追い上げることになる。曇り/ウェット、気温 19℃、路面温度 21℃というコンディションの 13 時 32 分にスタートが切られた。

多くのチームはプロドライバーがスタートを担当。序盤から激しいトップ争いが展開された。下垣にとって岡山は走り込んだサーキットであり、いわばホームコース。序盤に 1 台にかわされたが 8 位という順位を守り徐々に乾いて来た路面にも対応しステディに 35 周で 60 分を走り終えピットイン。給油、右側のタイヤ 2 本を交換しここで森田に交代した。

森田は走り出しから 1 分 38 秒台のタイムを刻み 8 位をキープ。他チームのピット作業の間にクラス 6 位へ順位を上げた。さらに 49 周目には同じクラスのスープラをかわした。しかしその 3 周後には抜き返され 7 位へ。その後は徐々に距離が離れ再逆転はならず、約 40 分走り 59 周でピットイン。給油、今度は左側のタイヤ 2 本を交換しアンカーの冨田に交代。一旦 9 位へ順位を落としたが、他車のピット作業がひと段落すると順位は 7 位へ戻すことになった。

冨田は同じクラスの周回遅れの車両に追いつくが、車両の特性の違いもありなかなかこれを追い抜くことができず。それでもこれをかわし約 8 秒前を走る 6 位の車両を追ったが 16 時 33 分にクラス 7 位総合 13 位でチェッカー。エントリーした 4 戦連続で完走。4 ポイントを加算してシリーズ 9 位を守った。大きなミスもなく少しずつではあるが力をつけて来たと感じられるレースだった。

次の第 7 戦(最終戦)は、11 月 14～15 日に富士スピードウェイにおいて 4 時間レースとして開催予定。

下垣和也「雨が降って欲しかったのでドライ路面になったのは残念です。地元のコースなので雨のラインも知っているし他車との差もドライほど広がらなかったでしょう。序盤こそライバルに食らいついていけたのですが、ドライになるとプロは速いです。最終戦ではもう少し成長したところを見せたいと思います。ペースがコンマ 5 秒上がると状況が変わると思いますし、頑張ります」

冨田自然「1 台のラップ遅れに引っかかりましたが、なかなか抜ききれませんでした。タイヤの 2 輪交換など作戦は功を奏したと思います。22 台という少ない台数のレースで混戦にはならず単独走行の時間が長いこともあり、今ひとつスピードを出しきれませんでした。前のレースから自分たちのペースは上がって来ていると思うので、これを維持して最終戦では優勝を目指したいです」

森田真心「交代してしばらくはペースも良かったのですが、自分のタイヤマネジメント能力が少し足りずせっかく抜いたライバルに抜き返されたり。これまでの課題を改善できているところはあるのですが、そうするとまた新たな課題が出て来て、同じクルマに乗っているのに全然追いつかないなどとても悔しいレースになってしまいました。最終戦では今年の有終の美を飾りたいです」

永原蒼翔「スープラ GT4 の経験の少なさもありますが、これを速く走らせるための方法がまだ自分の中で定まっていない状態で、これが一番の難点なのだと思います。決勝までのタイムで森田選手に負けてしまい今回は乗ることはできませんでしたが、最終戦はもう少し長いレースになり乗れると思いますし、富士は今年 2 回目のレースでもあるので気持ちを切り替えて頑張ります」